

今月の ESD のひろばでは「どうして ESD？」をテーマにお話ししていきます！

そもそも、なんで ESD が始まったの？

1962 年 レイチェルカーソンという人が「沈黙の春」という本を出しました。



みなさん！
生態系がおかしくなってますよ～

1972 年 国連人間環境会議で環境問題が人間の脅威であり国際的に取り組むべき課題だと宣言されました。

「やっぱり、
まずいよ、まずいよ、…」

「確かにこのままじゃあね」

「そろそろ皆でやりますか！」

人間環境宣言

1987 年 環境と開発に関する世界委員会（ブラントライト委員会）

1992 年 環境と開発のための国連会議（地球サミット）

「日本さん！いいこというね！」

2002 年 持続可能な開発に関する世界首脳会議（リオ+10）

「ブラボー！」



「ESD やろうよ！」

「やろう！やろう！」

じゃあユネスコがリーダーで！

2005 年 国連 ESD の 10 年 国際実施計画をユネスコが策定

そして月日は流れ、日本では・・・

2018 年 教育指導要領改訂（幼稚園小中学校）

学習指導要領前文に「・・・これからの学校には、一人一人の生徒が、持続可能な社会の創り手となることができるようにすることが求められる。・・・」と ESD の教科の枠を超えた取り組みが全面的に打ち出されました。

じゃあ、なんでえ保育園で ESD をするの？

ユネスコは持続可能な開発を実現するには、ESD を幼児期から行うことを推奨しています。

コミュニケーション能力や対人関係能力、共感性などの社会性の発達において重要な能力は、母（まわりの大人）から子へと注がれる愛情から生まれる基本的信頼感など、乳児期の体験が大きく影響するからです。

